



ふれあい'なのかいち

「人との出会いを大切に
風景との出会いを楽しみに」

一・十 花岡 正明

写真家・原和明さんは一九四八年に木曾町に生まれ、一九八三年に写真の世界に入り、県内各地の風景を撮影しカレンダー・雑誌等へ提供しています。原さんを講師に「写真講座」が公民館と歴史の会の共同で開催されました。スマホで気軽に写真を撮る機会が多くなり、都度上手に撮影したいと思っていたので早速参加しました。まず、撮影についてのお話を聞いた後に、外に出て、道祖神、古民家、神社等を回り撮影実習をしました。



「風景写真の撮り方」講座【2022年7月3日】

風景写真のポイントの一つは時期場所が分かるようにすることで、例えば、常念岳を背景に紫陽花などの花を入れて、その場所と季節を演出します。



一番大事なのは何を撮るかということで、例えば盛夏なら、フアインダーに写る花々、田畑、山々、雲空等、どこに盛夏を求めるか、を決めることかと思えます。表題は原さんの座右の銘です。原さんは、撮影で出会った方々と会話することも多々あり、風景写真の道を究めるのと同時に、そこで暮らす人々との交わりも深めています。





七日市場の歩み勉強会【2022年5月29日】

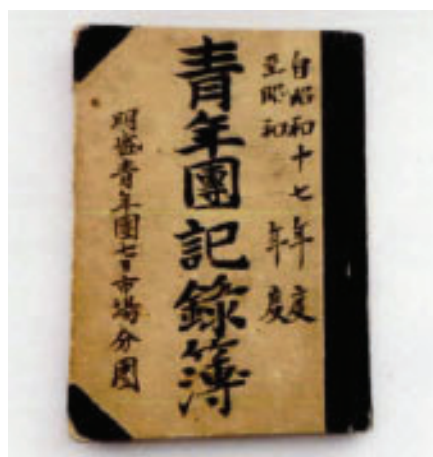
「七日市場の歩み勉強会に参加して」

生活部副部長 丸山 一郎

生活部主催で「七日市場の歩みⅢ」と題し、講師に曾根原先生をお招きして、青年会の活動について講義をお聞きしました。青年会とは、今の公民館活動の原点になる活動だったことがわかりました。

コロナ禍の為、各部門正副部長の参加になつてしまいましたが、有意義な勉強会になりました。先生の貴重なお話をお聞きし

て、知識を得るすばらしさ、またそれを継承していくことの意義を感じました。

「昭和17年度 青年団記録簿」
明盛青年団七日市場分団

「マレットゴルフ大会に参加して」

一・九 鷲澤 正

前日の天気予報では「一日中曇りで夕方は雨」と言う様な放送でしたが、六月五日は朝から快晴で絶好のゴルフ日和となりました。

朝八時三十分の開会式の後すぐに各班に分れプレー開始となりました。

私は十数年前に一回プレーしただけで全くの素人でした。打った玉は真っ直ぐには行かず、右へ行ったり左に行ったり、たま

に真っ直ぐに行つた玉はOBとなり打ち直したり、またホールの近くでは穴に入らず反対側に行つたりと悪戦苦闘の連続でした。それでも班長さんなどのおかげで約二時間半のプレーを一番早く終わることが出来ました。表彰式ではブービー賞という名誉ある？賞をいただきうれしく思いました。林間の涼しい空気の中で体を動かせた事は心身ともに解放され、楽しい半日を過ごせた事に役員の皆様に感謝いたします。



マレットゴルフ大会【2022年6月9日】



三郷公民館役員研修会【2022年7月3日】

「七日市場ホームページ取組事例」の発表

公民館総務

七月三日（日）に三郷地区公民館役員研修会が行われました。

「地区公民館の工夫と努力から学ぶ」の先駆的な取組み事例として、七日市場地区を代表し、松尾学さんが「公民館ホームページの作成」を発表されました。

ホームページ立ち上げの経緯から仕組みや管理、今後の課題までの発表資料を、パワーポイントで自ら作成され、分かり易く解説していただきました。

三郷地区でホームページを運営しているのは現在、当地区だけでなく、参加者の皆さんからは大変参考になったとの感想が寄せられ、好評をいただきました。

『七日市場の歩み』発刊のお知らせ

公民館総務

「七日市場の歴史を学ぶ会」（会長 根原孝和さん）は、二十年に亘り地域の歴史の調査や活動を行ってきました。

その集大成となる『七日市場の歩み』活動の記録 地域の文化づくりへ（仮称）の発刊が決定しました。

長野県地域振興事業からの補助金と公民館事業費を基に発刊され、冊子は各戸へ無料配布されます。この冊子を通して、私たちの住む七日市場の歴史を知ることの楽しみを是非味わってみてください。

この発刊を記念し、左記日程で発表会・講演会を開催致します。詳しくは、十一月下旬ころ配布のチラシをご覧になりご確認ください。

『七日市場の歩み』発刊発表会・講演会
十二月十八日（日）十三時頃から
三郷公民館にて



✓「いま、これが気になっています！」

5月から6月にかけての早朝5時から6時くらいでしょうか、コツ・コツコツと不規則なリズムで窓ガラスをたたくような音に起こされた人はいませんか。風で何かが揺れて当たっているのかな？何も吊っていないのに変だな。そう思った人がいたら、それは実はシジュウカラが犯人(犯鳥)なのです。

「こら、俺の縄張りから出て行け。」と、車のサイドミラーに映ったわが身を敵と思い込み、追い出そうと嘴でミラーをたたいている音だったのです。これに気が付いてからは、音がするとすぐにカメラを持って二階の窓から身を乗り出し、ついに撮影成功！動画も撮ってしまいました。この話しにはまだ続きがあるのですが、また次回ということに。

編集人



七日市場の歴史(第五十四回)

市場があった頃のこと②

曾根原 孝和

中世末の材木市 市場が成立した時代よりずっと下がりますが、天正十一年(一五八三)八月、松本城主小笠原貞慶が二木豊後守に与えた書状に「にしまさ(西牧)りやうぶん(領分)河にしものしろき「河西の白木」材木・薪、二木の市にて商売すへき事」があります。

そして、「二木の市」は、一日市場を指すものとされてきましたが、『三郷村誌Ⅱ』編纂中の研究で、七日市場と考えるのが適当とされてきています。なお、「白木」とは、「黒木」という「皮のついたままの丸太」に対して、「皮をはいだ木地のままの木材」といわれます。ていませう。

地字「ドバシタ」 稲核・奈川・大野川などからの材木を運ぶには、川下げによつたと考えられます。当時七日市場の東端の上真々部の字は、隣接する豊科真々部(豊科地籍)にもみられ、梓川の河原であり、導水路など設置に好い所でありました。

七日市場に近い上真々部地区の南部巾下には、材木を揚げる所を示す地字「ドバシタ」

(土場下・渡場下)があります。近辺に、川下り諸木を陸揚げし、貯木施設があった証と考えられます。

これらのことから、豊後が書状を得た天正十一年以降は、この河原地は「二木の材木市」として盛況であったことがうかがえます。

なお、関係したと思われる河川には、ここを流れた梓川の分流旧中曾根川、岩岡にて梓川より取水した真鳥羽堰が推測されますが、今後の研究を待ちたいです。また、小笠原氏の後の石川氏の時代には、樽木川による堀米(松本市島立)の渡場への転換により「二木の材木市」は消えていったと思われまう。

「ドバシタ」のある巾下は、江戸時代に梓川の洪水が何回もあり、下流の五箇村は水神様を祀り安全を祈願しました。



上真々部巾下の水神様遠景

編集後記

コロナ禍が三年目に入ってしまった、私たちの生活様式が従来と様々な点で変わってしまった。公民館活動も大きな影響を受けています。事業内容についても見直す時期に来ているのかもしれない。

今求められていることは、地域の絆が切れることのないよう、工夫しながら三密になるような行事は避ける、大勢集まることがむずかしいため、準備・段取りに大きな手間をかけないようにしながらも楽しい行事にしてゆく、ということだと思います。

これまでの慣習にとらわれず、新しいことにチャレンジしてゆききっかけとしてこのコロナ禍をとらえなければ、と思う日々です。

副公民館長 加藤

七日市場地区公民館報
ふれあい なのかいち

Vol.21 No.2 第59号

【発行日】2022年10月9日

【発行所】七日市場地区公民館

【発行人】寺沢 則彦

【編集人】加藤 崇雄

【監修】太田 隆

【編集委員】

柴田 佐恵美 (文化部)

紅林 奈美緒 (体育部)

丸山 一郎 (生活部)

花岡 正明 (ボランティア)

松尾 常德 (ボランティア)

丸山 博幸 (ボランティア)

【HP監修】

松尾 学 (ボランティア)